

第 92 回奈良県河川整備委員会 議事概要

令和 2 年 3 月 17 日（火）開催予定の第 92 回奈良県河川整備委員会が中止となったため、各委員へ個別訪問を行い、ご意見を伺った。

日時	委員	場所
令和 2 年 3 月 16 日（月） 16:30~17:30	館野委員	奈良女子大学
令和 2 年 3 月 17 日（火） 9:00~9:15	河本委員	奈良教育大学（メール・電話）
令和 2 年 3 月 17 日（火） 11:00~12:00	庄田委員	小林建築事務所
令和 2 年 3 月 17 日（火） 15:00~16:00	川池委員	京都大学宇治川オープンラボラトリー
令和 2 年 3 月 18 日（水） 11:00~12:00	堀野委員	大阪府立大学
令和 2 年 3 月 18 日（水） 15:00~16:00	岡崎委員	大阪教育大学
令和 2 年 3 月 19 日（木） 9:00~10:00	伊東委員	大阪商業大学
令和 2 年 3 月 19 日（木） 13:00~14:00	倉橋委員	文化創造アルカ
令和 2 年 3 月 19 日（木） 15:00~16:00	久保田委員	天理市役所
令和 2 年 3 月 23 日（月） 9:00~10:00	藤次委員	奈良県庁
令和 2 年 3 月 24 日（火） 11:00~12:00	立川委員長	京都大学吉田キャンパス

- 議事 (1) 第 91 回奈良県河川整備委員会の議事概要について
- (2) 委員からの意見の対応について
 - (3) 進捗点検とりまとめ（大和川水系布留飛鳥圏域）
 - (4) その他

- (1) 第 91 回奈良県河川整備委員会の議事概要について

○久保田委員 3 ページ 4 行目の「最上流の」を「県管理区間の最上流の」とすること。また、3 ページ 7 行目「上流で分流し」を「布留川本流からの分流により」とすること。

- (2) 委員からの意見の対応について

●平成 29 年 10 月洪水の確率規模について

○庄田委員 雨量局は役場などに設置してあるのか。
→ その通りである。

●布留川南流の分水状況について

○庄田委員 取水工は、洪水時には閉めるのか。
→ 水利組合が管理している。

○岡崎委員 暗渠の箇所はどうなっているのか。
→ 水路に蓋がのっているだけの構造である。

○岡崎委員 暗渠箇所の造成された時代は古いのか。
→ 当該箇所は県管理区間の一級河川ではないため不明である。

○久保田委員 天理ダムの貯水位は洪水時でもあまり高くないが、もっと貯留してもよいのではないか。堤体の安全性の問題から水位を上げることができないのか。

→ 洪水時は、ゲートの操作規則に従って運用し、貯留している。

○久保田委員 河道に土砂が堆積すればとることになるが、掘削後にツルヨシやセキショウを植えることにより自然や環境と調和した川になるのではないか。

●寺川の佛生井堰の改築について

○庄田委員 改修済み区間の写真では、4~5年で植生が回復しているように見える。

→ 今年度調査は行っていないため、写真で確認いただいた状態となっている。

●飛鳥川の整備内容の記載について

○堀野委員 「堤防の計画断面が不足している」は文章としておかしい。「現況の堤防断面が不足している」ではないか。

→ 「堤防の現況断面が計画断面に対して不足している」と修正する。

●飛鳥川の流下能力について

○庄田委員 ネック地点の落差は自然石風できれいだ、意図して作ったのか。

○岡崎委員 最小流下能力地点の落差は自然の物なのか。

→ 意図して落差を施工している。

●放水路の構造について

○岡崎委員 新川放水路はいつ計画されたものか。

→ 昭和50年に計画された。

●水田貯留、ため池貯留について

○館野委員 昭和60年当時は、なぜため池治水転用は水位低下方式が多いのか。

→ 水位低下方式は、利水容量が減少することに対してご理解をいただけたのだと思う。

○岡崎委員 水田貯留は農家が自発的にやっているのか。

→ 県や市町村から地元の方に主旨を説明してお願いしている。

○岡崎委員 水田貯留はイネの生育に問題がないのか。

→ イネは30cm以内の水深なら24時間以内は水没しても問題はなく、現状問題があるとは聞いていない。

○岡崎委員 調整池方式と水位低下方式ではどちらの方が農家にとって手間がかかるのか。また費用はどうか。

→ 水位低下方式は予め水を抜く必要があり、手間がかかる。一方で大規模な工事などを必要とする調整池方式の方が費用はかかる。

○久保田委員 内水対策は重要であるが、排水ポンプの設置はできないのか。

→ 大和川本川との関係で排水ポンプの設置はできないため、ためる対策を行っている。

る。

●河川清掃等の目標について

○庄田委員 愛護団体は県が把握しているものなのか。

→ その通りである。

○堀野委員 奈良新「都」づくり戦略は、どの部署が作ったのか。

→ 各部局の個別戦略を政策推進課がとりまとめた。

○伊東委員 以前の委員会で、奈良の花でないものを植栽するのはよくないとの意見があったが、個人的には地元の方が好みの花を植栽することでよいと思う。

○藤次委員 支援プログラムの目標設定は、最近できたのか。

→ 以前の主な政策集の時からあった。

●その他

○河本委員 各種地図にはスケールを入れること。また、地図およびグラフ（流下能力図）は、文字が読みとりやすい大きさかという観点からすべて点検し、適宜「別紙参照」などの形で拡大した図に誘導すること。

→ スケールについて地図を修正する。その他のご意見については来年度から検討させていただく。

(3) 進捗点検とりまとめ（環境モニタリング調査結果）

○館野委員 生物環境は、H26 に比べてよくなっているのか。

→ 現在は、工事前のデータを蓄積している状況なので把握出来ていない。

○庄田委員 生物のグラフは種数で整理しているが、一匹でもいればグラフ化しているのか。

→ その通りである。

○庄田委員 アレチウリやオオカワヂシャが減っているが、駆除したのか。

→ 特に駆除はしていない。

○庄田委員 藤次委員 対照区間でしか見られない種もいるようだが種構成は同じなのか。

→ 科で分類するとよく似ており、種構成は変わらないと考えている。

○庄田委員 種構成が大きく変わると何か大きな影響があるのか。

→ 影響がある。工事前にとったデータが似た種構成でないと、工事後の変化を調べた際にそれが自然の遷移によるものなのか、工事によるものなのかがわからなくなる。

○川池委員 布留川北流の調査範囲は堰の湛水区間になっていないのか。

→ 湛水区間ではなく、流れがある箇所なので問題ないと考えている。

○川池委員 環境調査は経年的に生物の構成がどのように変わっていくかを調べるのか。

→ その通りである。

○川池委員 植物の外来種は理想的には全て駆除する方が良いのか。

→ 駆除した方が良いが、常時監視、常時駆除は難しい。

○川池委員 資料 3-3 の 50 ページの水位局の位置図に危機管理型水位計は入っているか。

- 入っていない。危機管理型水位計は、今年度から、順次、整備予定である。危機管理型水位計の整備の進捗は今後も報告する。
- 川池委員 台風 19 号で破堤した千曲川の破堤箇所にも水位計をライブカメラが付いていた。貴重な情報になると思う。タイムラインの指標についても使えると思う。
- 堀野委員 資料 4-1 の 17 ページの対照区間を示しているグラフは、R1 年度と標記すべきである。
- 修正する。
- 堀野委員 カワセミは重要種と指標種でダブルカウントになっていないか。
- カウントする際は重要種に統一する。
- 岡崎委員 カワセミのカウントに関しては、県がより重要視している方を優先し、注釈でその旨を追記する必要がある。
- 修正する。
- 岡崎委員 環境モニタリング調査は同じ定点で継続して続けることが重要である。植物・植生は草刈り等の外的要因の影響を受けるが、魚類・底生動物はそのようなこともなく、河川整備の影響をより正確に検証できる。河川整備の際は自然石を使用すれば自然の回復も早い。
- 伊東委員 大和川において、植物が減ったのに魚類が増えたのは何か理由があるのか。
- 調査のタイミングもある。今回の調査は工事前のデータを蓄積しているものであるので工事後に比較していきたい。
- 伊東委員 対照区間と進捗点検調査区間では変わらないほうが良いのか。
- 比較のしやすさから似ているほうがよい。
- 倉橋委員 オープンにできるものであれば環境モニタリング調査を見学してみたい。
- 時期をお伝えすることも可能である。

(4) その他（次年度の予定）

- 事務局 次年度は、曾我葛城圏域の審議を予定している。スケジュールは今年度と同様である。

以 上